さいたま赤十字病院 院外報

かがやき

FREE
ご自由にお持ちください

Vol.49
2019年度
3号

Contents

02-03 院長挨拶　高度で質の高い医療の提供がわれわれの使命です

04 診療科からのメッセージ
【総合臨床内科】さいたま赤十字病院の総合臨床内科にかかってよかったと思っていただくことが目標です。
【呼吸器内科】レベルの高い医療を提供出来るようにスタッフ一同頑張っています。
【小　児　科】当院の小児科は、外来と病棟とＮＩＣＵ・ＧＣＵで診療を行っています。

05 さいたま赤十字看護専門学校　最後のクリスマスキャンドルサービス

06 職員紹介　排尿ケアチーム　岡田 幸恵 看護師

07 MSW コラム　医療ソーシャルワーカー（MSW）をご存知ですか？

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society　さいたま赤十字病院

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構
認定第 JC528 号

院長 安藤 昭彦

院長挨拶

高度で質の高い医療の提供がわれわれの使命です

未来に向けて一歩前進した年

昨年は当院の事件、事故等あるいはその報道で多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたこと、大変申し訳なく心よりお詫び申し上げます。一方で、脳死移植の臓器摘出や県立小児医療センターとの協働による生体肝移植など新たな先進医療への取り組みがスタートしたこと、救急領域では一昨年の総務大臣表彰に引き続き、県知事表彰を頂くことができたこと、また今年７月に目と鼻の先のさいたまスーパーアリーナで開催される東京オリンピックのバスケットボール大会に備えて外国人患者受入れ医療機関認証制度（ＪＭＩＰ）の認証を取得することができたことなど、未来に向けて一歩前進した年にもなりました。これも一重に皆様のご支援の賜物と深く感謝を申し上げます。

想定以上に少子化が進んでいる

さて、昨年暮れにわが国の年間出生数が 90 万人を割り 86 万４千人になる見込みで、想定以上に少子化が進んでいるという衝撃的なニュースが新聞紙上を賑わしました。１人の高齢者を働き手一人で支えなければならない時代がいよいよ目前に迫ってきた感がいたします。子育て支援や、ＡＩの活用、労働生産性を高めるための働き方改革、外国人労働者の確保、そして元気な高齢者には支える側に回っていただくことなど真剣に考え、速やかに実行に移さなければならないことを国民一人一人が自覚しなければこの国の未来はないと言っても過言ではありません。

三位一体での改革

医療についても同様です。思い切った改革を行わなければ高い水準の医療が分け隔てなく受けられる日本の医療提供体制を維持していくことは困難です。そこで国を挙げて「地域医療構想」、「医師等の働き方改革」、「医師の偏在対策」三位一体での改革が推し進められようとしています。しかも“待ったなし”であることは昨年９月に地域医療構想の実現に向けて「再検証」が必要な公立・公的医療機関として424病院が半ば強引に公表されたことでも明らかです。これに対して地域の意向を受けた首（クビ）長や地方議員の猛反発が話題になりましたが、むしろ日本の医療提供体制の危機的状況が広く共有される結果となったことはそれなりに意義があったと感じています。

医療現場の負担を軽減する試み

医師等の働き方改革も同じように、医療を提供する側と受ける側双方の理解と協力が不可欠です。これまで医師をはじめとする多くの職種がある意味自己犠牲的献身によって医療を支えてきたことは誰もが認めるところですが、今後生産年齢人口が急激に減少するなか高齢化に伴う医療介護の需要増に備えるためには役割分担等の効率化によりチームとして対処していくしかありません。医療を受けていただく皆様にもチームの一員としての役割を担っていただく必要があります。その一つの取り組みとして、適切な医療のかかり方を社会全体で考えるためデーモン閣下を“上手な医療のかかり方大使”に任命し、不要不急の受診を減らして医療現場の負担を軽減する試みが始まっています。気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つこと、当院のような総合病院にかかる必要がある時はかかりつけ医の「紹介状（診療情報提供書）」を持参すること、休日・夜間の時間外には「埼玉県救急電話相談（＃7119）」やチャット形式で気軽に相談が可能な「埼玉県ＡＩ救急相談」を活用することなど周知が図られています。当院でも完全紹介予約制の導入やかかりつけ医への逆紹介の推進、病状説明の時間内実施など働き方改革に繋がる取り組みを積極的に進めているところです。

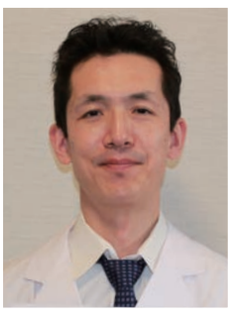
臨機応変、適切に対応していくことが重要

さいたま市の人口はまだしばらく増加しますが、同時に高齢化が進み医療需要も当面増え続けます。特に、がんや心筋梗塞、脳卒中、肺炎、大腿骨頸部骨折など高齢化と関連の深い疾患が増えると予測されています。したがって医療ニーズの質的変化、場合によっては量的な変化を察知し、臨機応変、適切に対応していくことが重要だと考えています。すなわち地域における当院の役割をしっかりと見据えて求められる高度で質の高い医療の提供がわれわれの使命です。そのためには必要に応じて早期退院を推進し、他の医療機関との役割分担と連携をしっかりと行い、発症から入院、回復期、退院までスムーズに受け渡していくことが当院の地域包括ケアシステムにおける役割だと認識しています。

何卒、ご理解ご協力、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

MESSAGE 診療科からのメッセージ

総合臨床内科



総合臨床内科 部長
江口 和男

さいたま赤十字病院の総合臨床内科にかかってよかったと思っていただくことが目標です。

総合臨床内科では主に次のような患者さんを担当しています。

総合臨床内科外来
（月、火、金曜日）

①原因不明の発熱、痛み、むくみなどがあっても他の医療機関でなかなか診断がつかずに困っている方。

②いろいろな病気を持っていて、病気や薬の整理、見直しが必要な方。

高血圧外来（水曜日）

③高血圧の原因が知りたい方。

④血圧コントロールが難しくて困っている方。

また、入院患者さんも担当しています。

必要に応じて院内の専門診療科へ紹介します。全ての方をうまく診療できるとは限りませんが、さいたま赤十字病院の総合臨床内科にかかってよかったと思っていただくことが目標です。

呼吸器内科

呼吸器内科 部長
松島 秀和

レベルの高い医療を提供出来るようにスタッフ一同頑張っています。

当院の呼吸器内科は肺癌、肺炎、気管支喘息、間質性肺炎、COPD、睡眠時無呼吸症候群などすべての呼吸器疾患にレベルの高い医療を提供出来るようにスタッフ一同頑張っています。

咳、痰、息切れなど呼吸器症状の続くとき、また健診にて胸部異常陰影を指摘されたときにはかかりつけの先生にお願いして、当院呼吸器内科の外来予約を取っていただけたらと思います。

呼吸器領域においても早期診断、早期治療が重要なのは言うまでもなく、当科では早く皆様の専門診療が出来るように、たくさんの紹介枠を用意していますので、ほとんど待たないで診察を受けることが可能かと思います。また近隣の開業医の先生方との連携も良好ですので、ご安心くださいね。

小児科

小児科 部長
佐藤 有子

当院の小児科は、外来と病棟とNICU・GCUで診療を行っています。

外来は紹介予約制のため、かかりつけ医の先生方からの紹介状が必要になります。

対応可能な疾患は

①感染症（発熱の精査）

②アレルギー疾患
（気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎）

③頭痛精査（起立性調節障害など）

④乳児血管腫（いちご状血管腫）

⑤予防接種・育児相談　などです。

その他の疾患に関しては直接お問い合わせ下さい。また入院の場合、未就学児のお子様には付きそいが必要になります。皆様のお力になれるよう小児科一同がんばります。

さいたま赤十字看護専門学校

最後のクリスマスキャンドルサービス

当校は、1936（昭和11）年 4月10日、日本赤十字社埼玉支部療院附属看護婦講習所として講習生（救護看護婦）の養成を開始しました。これが埼玉県内初の看護婦養成の始まりです。それから84年を経て2020（令和2）年3月31日、日本赤十字看護大学さいたま看護学部に看護教育の未来を託し、歴史を閉じます。令和元年12月19日が最後のクリスマスキャンドルサービスになりました。

病院がさいたま新都心へと移転して、3年がたちます。1年目は3学年、2年目は2学年、3年目は3年生だけとなりました。当日参加した26名は、5階から14階までの14病棟をまわりました。スタッフステーション前に整列し「始めます」の実行委員の声から、左右に分かれて各病室前にキャンドルの光りと歌声を届どけました。スタッフの中には当校の卒業生が多く「なつかしい」「私も学生のとき参加したわ」という声も聞かれました。ポスターをみて楽しみにしていた方、歌声に誘われ点滴をされている方や車椅子の方も部屋から出てきて下さり、スタッフは部屋のドアを開け、歌声が届くようにしてくれました。入院中の方々のひとときの楽しみをお届けできたかと思います。

参加した学生は「最後のクリスマスキャンドルサービスは少ない人数の中、練習ではそろわなかったりと不安もありました。しかし、直前では今まで以上に声を出して歌うことができ、本番でも練習以上のものを披露することができました。患者さんが病室から出て涙を流す姿もみられ、3年間の集大成となったことを実感でき大切な思い出になりました。伝統を引き継ぐことができてとても良かったです。」と感想を述べ、赤十字看護学生としての経験をつむぐひとときなりました。

さいたま赤十字看護専門学校
教務主任　山口 佳代子

さいたま赤十字病院

職員紹介

Japanese Red Cross Society

排尿ケアチーム看護師
岡田 幸恵

排尿ケアチーム活動開始

はじめに

平成 28 年度保険診療改訂にて排尿自立指導料が新設され、入院患者さんに対して病棟看護師等と『排尿ケアチーム』が包括的な排尿ケアを行った場合に、週 1 回 200 点を 6 回まで算定できることとなりました。

『排尿ケアチーム』とは、泌尿器科医師・専任看護師・所定の研修を修了した看護師・理学療法士により構成されています。

当院では、2019 年 2 月より排尿ケアチームの活動を開始しました。入院中、治療の一環として膀胱留置カテーテルを挿入して尿量管理を行う場合があります。膀胱留置カテーテル抜去後に尿が出ない、あるいは尿失禁が続く。原因は様々ありますが、自排尿が全くない場合は腎機能に影響を及ぼすこともあります。そのため、膀胱留置カテーテル抜去後の排尿トラブルに関しては、まず主治医より泌尿器科へ診察依頼後、泌尿器科外来にて問診・超音波検査等必要な検査を実施します。その後は、主治医・病棟看護師と連携しながら排尿ケアチーム介入となる流れをとっています。毎週（金曜日 14 時から）排尿ケアチームラウンドを行っております。

「こんにちは、排尿ケアチームです」

病室へラウンドさせていただき、直接排尿状況に関するお話を聞き、排尿日誌を確認します。排尿に関する『困りごと』に対して病棟看護師とともにその場でカンファレンスを行い、個々に今必要なケアを導き出し、必要に応じて排尿動作に関するリハビリも提案・提供していきます。

これまで、排尿ケアチームラウンドを通して様々な患者さんとお会いしてきました。膀胱留置カテーテル抜去後に全く自排尿がなく、1日数回看護師による導尿にて対応してきた患者さんは「入院前はこんな事なかったのに。」と不安の訴えが多く聞かれていました。排尿ケアチームラウンドを重ねていくうちに、自己導尿を確立され、内服と自己導尿の併用により自排尿量が増えていきました。「最近、尿意が分かるようになってきましたよ。」と前向きな声があり、その後、自己導尿不要・排尿トラブルは全くなくなりました。「排尿ケアチームラウンドは卒業ですね。」と医師から声をかけられると「ありがとうございます。」と素敵な笑顔。この笑顔をみると『排尿ケアチーム』で活動してきてよかったなと思う瞬間です。

排尿トラブルは人に言いにくいもの。このトラブルは生活の質と尊厳を大きく損ない、介護者にも大きな負担を強いることになります。

『排尿ケアチーム』は、入院中の排尿トラブルに対する解決相談窓口になりたいと思います。患者さんの日常生活動作が拡大し、早期退院が促され、人としての尊厳を守る排泄ケアの実践が浸透すること、そしてたくさんの患者さんの笑顔とお会いするために、私も日々学び、努めていきたいと思います。

MSWコラム

医療ソーシャルワーカー（ＭＳＷ）をご存知ですか？

MSW は、患者さんとそのご家族にかかわる**経済的、社会的、心理的な悩みなどの相談**に、社会福祉の専門家として諸制度を活用しながら問題解決のお手伝いをしています。内容によっては、行政等の関係機関や他の医療機関、介護施設とも連絡をとりあい、**地域全体で患者さんの療養生活を支援**できるよう働きかけています。

● 当院における MSW の役割

当院は急性期医療の基幹病院として、救急車や他の医療機関からの紹介患者さんを受入れ、集中的な高度医療の提供に努めております。そして、この病院機能を維持していくために、急性期治療を終了した患者さんには速やかに退院や専門医療機関への転院のお話をさせていただいています。そのため、MSW 業務は「退院といわれても自信がない」「転院だなんて、どうしたらいいの」といった**退院にかかわる相談への対応**が非常に多くなっています。

● 退院支援 ～安心して生活できる地域作りを目指して～

当院では、患者さんの入院が決定したときから、患者さんが安心して治療を受け１日も早く退院できるよう様々なスタッフが関わらせていただいております。その中で MSW は「患者さんの生活」に焦点をあて、**傷病によって従来の生活に支障が生じ、生活の立て直しが必要な場合**や、患者さんの**希望する療養生活にむけて調整が必要な場合**などにお話を伺っております。

患者さんやご家族が考えるよりも早く退院の話は進行しがちです。「まだ日赤に入院していたい。」というお話もよくききます。ですが、ひとつの医療機関では患者さんの生活は支えきれません。他の医療機関や介護施設または行政機関などの支援が不可欠です。そして、これらの支援を包括した**地域体制こそが安心した療養生活の基盤**になります。

私たちは、この体制作りに向けて患者さんと向き合い、地域の関係機関と細やかな連絡や打ち合わせを重ねております。患者さんの療養生活への支援を通して、地域に必要な医療機関の一員としての役割を果たせるよう努力して参りたいと考えています。

総合支援センター 相談支援課 医療福祉相談係長 柿沼 佳美

MSW へのご相談は

【受付時間】9：00 ～ 16：30

【お問い合わせ】さいたま赤十字病院：048-852-1111（代表）

※原則、**予約制**となっております。事前にお電話でご連絡いただけますと幸いです。

患者さんの声にお答えします。

ご意見

父が入院中に急変となった知らせを、呼吸器内科の担当医から直接電話をいただき嬉しく思っております。担当医にはわかり易く説明され、こちらの立場も理解いただき感謝しております。父の命を大切にしてくださって有り難うございます。また、看護師の方々のきめ細かいお世話、アドバイスを受けられて貴院に入院できた父は幸福でした。娘として、人生の終末で悲しみはありますが、とても癒され満足しております。

お答えします

大変励みになる温かいお言葉をいただき、ありがとうございました。

ご意見

呼吸器内科でお世話になっている者です。外来受付カウンター付近には「激しい咳、熱等の症状のある方は申し出下さい」の案内表示が見当たりません。感染症患者に対して不安が大きい中、当該患者が申し出もせず待ち合いにいるとしたら恐ろしく思います。感染症を疑う患者は速やかに別室に隔離されるべきであると思います。絶大な信頼のある日赤病院なので、どうか率先垂範して実施されますようお願い致します。

お答えします

ご意見をありがとうございました。早速外来受付に表示いたします。

ご意見

病院の開門時刻が「午前8時」となっています。それまで寒空の下、玄関前で待たされるのが大変辛いです。整理番号を配布する等で、院内待合室まで入れてもらえると有難いと思います。

お答えします

ご不便をおかけし申し訳ございません。新病院開院後、外来診療につきましては全科予約制といたしました。そのため開門時間も午前8時とさせていただいております。早い時間に開門した場合、職員が出勤前であり不測の事態があった際も対応できないこと、さらには防犯上の問題もあることから患者さんにおかれましては大変ご迷惑とご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどお願いいたします。

ご意見

総合支援センターで相談させてもらいました。しかしながら、凄く冷たい対応でした。「ここは救急病院ですので、それ以上の事はできません。家族の中で話し合って下さい。」の言葉。不安で一杯なのになぜその様な発言をするのか疑問です。入院案内では、「不安や心配事がある場合相談にのります。」と書いてありましたが対応した人達全て冷たい対応でした。記載されている内容は詐欺です。

お答えします

この度は、職員の態度や対応でご不快な思いをおかけして申し訳ございませんでした。日頃から患者さんやご家族の視点に立った支援が実現できるよう担当職員一同努めております。今回いただいたご意見を職員全員で共有し、自分たちの行動や言動を振り返り、職員としての姿勢を改めてまいります。貴重なご意見、ありがとうございました。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報が保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないように行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。

かがやき（通巻 49 号）　発行元 さいたま赤十字病院
〒 330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5
TEL 048-852-1111（代）　編集 広報委員会
ホームページ http://www.saitama-med.jrc.or.jp/